

計画的な群れの個体数管理と地域主体の被害対策の推進

講師：里地里山問題研究所 鈴木克哉

ニホンザルの管理においては、計画的な群れの個体数管理と地域主体の被害対策の推進が重要です。サルは昼行性で群れを作って行動し、群れによって特性が異なるため、群れ管理と個体数管理を組み合わせることが効果的です。生息状況と被害状況の現況把握に基づいて計画を立て、管理を強化すべき群れを選定し、発信機を装着して行動域や個体数、詳細な加害レベルの把握を進めます。

群れの全体捕獲は加害レベルが著しく高く管理が難しい群れに、部分捕獲は個体数が増加した群れ頭数を減少させるために、選択捕獲は加害レベルの高い群れに対して悪質な個体を捕獲することで加害レベルを下げるために行われます。いずれの捕獲も加害レベルの判定を進め、対策の優先順位を決定することが重要です。

住民主体の対策推進には、確実に農地を守る手法の伝達、追い払いの考え方の整理、群れの位置情報の共有システムの構築、現地指導の実施が含まれます。補助事業で柵の設置を進める場合は、適切な設置方法とメンテナンスに関する事前情報の提供が必要です。集落内のエサ資源を減らすことで、追い払いの効果が出やすくなります。

集落ぐるみの追い払いは、サルの接近を把握し、多くの人で連携して、無理に追い返すのではなく追い送ることが効果的です。地域主体のサル追い払いを指導する際は、サルに餌を食べさせないことを目的とし、餌資源低減を優先させることが重要です。

ニホンザルの管理には、市町村・都府県の役割分担に応じた連携が必要です。市町村の役割は大きいですが、専門的な知識・人材が不足しているため、効率的な普及戦略を考えるためのパートナーを見つけることが課題です。都府県は広域的な状況把握のもとに計画を示し、市町村はその計画に基づいて管理・対策を進める必要があります。また、都府県としては広域連携の促進や人材育成の在り方を検討することが求められます。